

のではないかと思ふ。それを、カイゼルのものはカイゼルに返せ式に、若いものゝ考へは、若いものにまかせて置いて果していゝものであらうか。今日、西園寺老公は若い近衛文麿の魂を愛し、ドイツはヒトラーの明日あるを猶期待し、イタリーは國家の前途を青年外相チアノに

ゆだねてゐる。ひとり宗門が、若いゼネレーションを虐たげてよいといふ理屈はあり得ない。更けて行く秋、燈下の下に宗門の囚襲を心に惱みつゝ、空ろな氣持ちで書籍をめくる、若い學徒を想ひ浮べると惻々として悲哀が迫つて來る。

陣中隨想錄

小崎龍雄

戰地へ來てから一層内地に於て國民精神總動員が強固化されて來たと云ふ知らせを、誰からの便にも受けとることが出來、我々前線に在るものは何が無し身内の血が緊張するを覺へるのである。感激！我々を朝に夕に動かして行くもの其は凡てが感激の一語に包まれてしまふのではなからうか。云ひ知れぬ感激、その中に我々は既

に明日を約束してしまふのである。こんな簡單なことゝ一往誰かは笑ふかも知れないが、戰地では難しいことや理屈は一切抜きである。感激の人生とは戰時の生活をそのまゝに表現して居る言葉であらう。

○ 上海の陣中では學友や、知人とも相當會ふことが出來

お互に無事を祝し合つたものである。分けて半田清君や高野教誓君、保科正雄君、矢野寅吉君等は私が直接歡呼の聲で送つた人達だからまさかこんな所で會はうと豫期してゐなかつただけに喜びよりも、驚きの方が大きかつた。鈴木智久師は〇〇の殘敵掃蕩で戦傷されて兵站病院の一隅でお會ひしたのである。非常に家の事を心配されてゐたが、私は既に内地を發つ時から濱松のお母さんが亡くなられて居るのを知つてはゐたがどうしても傷つたお姿を見た時に云ひ切ることが出来なかつた。それから結城瑞光先生と二人で病舎の屋上で慰問講演をしてお別れして來たのであるが、病院を出てからも鈴木師の白衣の姿が眼の中に残つてゐて、わけもなく哭けて仕方がなかつた。其の外古屋是聞君、望月本修君、林松太郎君とも語り會ふことが出来、しばし此等の人とはなつかしい山の話に興ずることを得たのである。

○
大場鎮、廟行鎮、揚行鎮、吳淞クリーク、江灣鎮、北

停車場附近等の激の跡は暇の有る度に出かけて行つては見學と共に心から英靈の追弔をし、散華や香を供へたのであるが、散華だけは珍しいので同行の勇士達も、非常に悦んだりしてくれて私は尙更嬉しく疲れた足を我慢して、次々と回向してまはつて來た。

先日も某地で戦死された野田少尉の部隊葬を頼まれ、事變前は中學校であつた其の廣場で告別式を行つたのであるが、「こんな前線で衣を着けた坊さんに葬式をしてもらつて有難い」と石井部隊長に云はれ却つて自分の方が戦死者の英靈に對し御回向できこれに過ぎた光樂は無いと應へてからなほ色々と佛教のことなど語り合つて歸つたが、是は上海の新公園で行はれた第三艦隊大慰靈祭の時よりも自分一人だつただけに感慨深いものがあり、其の後遺族（夫人）から丁重な禮状を受けた時は僧侶になつてゐたことを此の時ほどつくつく有難く感じたことはなかつた。その外僧侶であつた爲めに話がうまく進んだり、信用してくれたり、又津田部隊長とか、軍司令部

の參謀とかにも易々と面會ができたリ、上海市長蘇錫文や、政府の要人達にも幾度か招待されたりして所謂大人の扱ひを受け、陣中に愉快な時間を所有することが出来た幸は生涯忘却されるものではないであらう。

○

愈々前線に行く朝、アスターハウスの宿舎を出て外を見ると空には未だ星が薄い影を残して居り遙か東の方をみつめて居る中、腹の底がだんだんと熱くなつて來る様な氣がして、俗に云ふ觀念の臍を決めたとはこんな感じかなと考へたりした。其程現在住んで居る蚌埠(ばんぶ)は遠い感じがしたのである。南京から揚子江を渡つて津浦線に來ると貨物列車の上は兵隊で一杯だ、何の兵士もく、除州陥落を目ざして緊張してゐるので顔相がまるで變つてゐる様に見える。敗殘兵や、土匪が横行すると云ふので話をして居る間も銃は離せない。私のやうに山の生活ばかりして、明け暮れ讀經と讀書と云つたやうな比較的靜かな暮しをして來たものは急劇な生活の轉移に對

して普段なら相當大きい精神的な動搖もあつたに相違ないが今は至つて氣分がさはやかで鈴なりのやうになつてゐる兵隊さんに内地の話などをしながらまる一日がかりで目的地に到着することが出来た。

○

當地へ來てからの仕事に就ては多く語ることを許されない。其は宣撫班が中支に於ては解消されて、特務機關が設置され今までの仕事は其一部分となり任務が擴大されて來たからである。陣中日誌に書いたやうなすばらしいことは暫くおいて、難民や子供達相手のことでもほんの少しばかりタツチして見よう。先づ支那へ來て驚いたことと感心したことは、醉人の姿を街の如何なる處へ行つても見ないこと、婦女子に對して特別の注意を拂はないこと、苦力に至るまで裸體を見せないことで、これは百人千人と使用して見ても分るが苦力等に至るまで人の前では決して裸にならない、況して一般の者は餘程苦しい生活の、其も極く幼少の者を除く外は裸になつてゐる者

がない。それから言葉が廣東語、福建語、上海語、北京語等とまるで相違し、地方に於ても少しく異なるのだから實に弱る。然し大體北京語が標準語になつてゐるから知識人なら何處へ云つても大體通ずるらしく、言葉と云へば日本軍の占領地域に在つては日本化した支那語が随分用ひられてゐるが、此の傾向は將來益々増加して行くことと思ふ。一例を挙げれば很好（大層いゝこと）と云ふところを、很好でなあ、と云つた具合で一寸面白い。また一般に支那人は文字を知らないものが多く苦力等に至つては筆談はとても通じない。先日も警士を採用すべく試験をしたところ自分の名前さへ書けないものが十四、五人も居たのだから愈々もつて驚かざるを得なかつた。

水の悪いのは天然だから仕方がないが衛生觀念の無いことは想像以上で、言語に絶する。と云つたところで大陸支那だ人間がのんびりして居るのだから細かいことなどは一々氣にかけてゐたのでは始まらないのかも知れない。食物は世界一と豪語し自他共に許してゐるだけあつ

て實に甘い、然し其も上海あたりの有名な飯店に行かなければ話の種になつてはくれない。江北地方はまんとうと云つて麥粉で出來たパンに似たものを常食としてゐて時たま米の飯にありついたと思へばそれこそ箸にも何にもかゝらないポロ／＼のを食はせる。酒は老酒とか、高粱酒とか獨特なものがあり捨てたものではないやうに聞いている。こんな事ばかり書いてゐても仕方が無いから本來の道に歸つてみよう。

○

支那の佛教は既に存在の價値を失つて居り、日本佛教と比べて見た時に完全に大乘的色彩を失なつて居る。であるから我々が積極的に爲すべきことは此等中華の佛教徒に對し生彩ある大乘の道を注入すべきことで、これに依つて眞に彼等を甦らせねばならない。

其で日本宗教の大陸進出の指導方針としては、先づ教化の對照を支那民衆に置き、同時に支那僧侶の資質強化に努めて支那に於ける佛教の地位向上を計り、誤れる征

服感や、安價な優越感を一掃して衆に率先して日華の提携の先驅者たるの覺悟を以て邁進しなければならぬ。

たゞに姑息な名譽心にのみ捕はれてゐるならば我が日本佛教は大陸進出の價値なきものであり、再び孤島本國に退去すべき運命に逢着せねばならぬであらう。

其と共に大陸に勇飛せんと志するものは先づ支那に對

改造か創造か

既に語られた諸君の御意見を拜聽するに、何等か、口では言得ぬ事が語られてゐた。口では言ひ得ぬ事が、諸君の眼で否諸君の態度で而も明に語られてゐた。それは一體何か、……………二十世紀の神話である。われわれの世紀が創造した神話である。諸君、周知の如く、現今の創造的努力は、全體性へと、ひたぶるなる歩みを、續てゐる。われわれが、地平線上仄かに知覺した世界に

する認識を深め確實なる足跡を印することが出来るやうに用意してあらねばならないことは勿論である。

公務多端。二、三分づつの僅かの暇をぬすみ書き綴つたもの故御判讀を賜はれば幸甚至極、では遙かに各位の御健勝を禱る。

岡 部 科

就て、新しき心臓を形作る爲に、あらゆる手段を盡し、われわれが、望むまゝにこの世界を分解し、かくて混沌たる状態から秩序あるPOSITIONに迄變形せんとするので。

諸君、既に過去りし二十世紀の三分の一世紀を回顧し給へ。われわれは、一つの強固なる壁に突き當つた、ナチオ一の聲は街に喧しく、幾多の小市民的打開策が試みられたるにもかゝらず、そこに生じたものは、實に虚